教育研究業績

2025年 5月 1日

氏名　　渡部　加恵

研究分野	学位
母性看護　健康心理	修士（健康心理学）

研究のキーワード

母性看護、助産教育、女性、月経、健康心理

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）母性看護学講義でのディベートサポート	1998年4月～9月	母性看護学講義内でディベートを行う講義の一部をサポートした（神戸大学）
母性看護学実習　助産学実習		母性看護学実習（3年生）、新規病院での助産学実習（4年生）の指導を行った
2）母性看護学各論、新生児の講義　母性の演習	1999年4月～2000年3月	新生児の生理、正常編、異常編の講義を3回行った。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の演習を4回行った。（順天堂医療短期大学、母性看護学）
母船看護学実習		母性看護学実習の指導を行った。
3）助産専攻科、新生児論講義	2000年4月～2002年3月	助産専攻科にて新生児論の講義（全8回）を行った。
助産専攻科実習記録の作成		実習後の臨床会議資料の作成、助産専攻科の実習記録作成にかかわった。
女性とアロマセラピーの講義	2000年4月～2002年3月	助産専攻科の講義内で学生が臨床実習で実践できるようなアロマセラピーに関する講義を行った。
助産学実習		新規病院での助産学実習の指導を行った。（順天堂医療短期大学助産専攻科）
4）看護過程実践Ⅰ・Ⅱ	2002年4月～2004年3月	基礎看護学実習1年生と基礎看護学実習2年生の指導を行った。
ライフステージと発達援助実践Ⅰ	2002年4月～2003年3月	母性看護学実習2年生の指導を行った。
助産過程Teaching Assistant	2004年4月～2004年9月	（慶応義塾大学、非常勤）
5）看護技術分野、日常生活援助技術、看護アセス技法　Ⅰ・Ⅱ　講義、演習	2005年4月～2008年3月	看護技術分野（基礎看護学）の日常生活援助：衣と清潔の講義、他全演習を行った。
看護過程実践Ⅰ・Ⅱ（実習）		基礎看護学実習1年生と基礎看護学実習2年生の指導を行った。（慶應義塾大学）
6)幼児教育学科での小児保健の講義	2018年4月～2019年3月	幼児教育学科（保育士養成）で小児保健の講義（全30回）を行った。
子どもの保健の講義	2019年4月～2020年3月	新カリキュラム変更に伴い子供の保健の講義（全15回）を行った。（武蔵野短期大学、非常勤）
7）小児看護学実習　基礎看護学領域授業全般の補助、演習、基礎看護学実習	2020年10月～2021年3	小児看護実習の病院実習指導、保育園実習指導を行う。基礎看護学領域では授業補助、演習、基礎看護学実習指導を行う。
母性看護支援論Ⅰ・Ⅱの演習、母性看護学実習、総合実習（母性）、基礎看護学領域授業全般の補助、演習　基礎看護学実習　看護援助実習	2021年4月～2022年4月	母性看護支援論Ⅰ・Ⅱの演習、母性看護学実習、総合実習指導を行う。基礎看護学領域では授業補助、演習、基礎看護学実習、看護援助実習指導を行う。
母性看護支援論Ⅰ・Ⅱの演習、母性看護学実習、基礎看護学領域授業全般の補助、演習　基礎看護学実習　看護援助実習	2022年4月～2023年3月	母性看護支援論Ⅰ・Ⅱの演習、母性看護学実習指導、母性看護学領域業務補助を行う。基礎看護学領域では授業補助、演習、基礎看護学実習、看護援助実習指導を行う。
基礎看護学領域授業全般の補助、演習、基礎看護学実習　看護援助実習	2023年4月～2025年3月	基礎看護学領域では授業補助、演習、基礎看護学実習、看護援助実習指導を行う。
母性看護学実習	2024年10月～2025年3月	母性看護支援論Ⅱの演習、母性看護学実習指導を行う。（西武文理大学、非常勤）
母性看護学概論　母性看護学支援論Ⅰ・Ⅱ　母性看護学実習　看護とホスピタリティ　基礎ゼミナール　総合実習　卒業研究	2025年4月～	
2　作成した教科書，教材		
1．日常生活援助技術、看護アセス技法Ⅰ・Ⅱ演習要項	2006年4月	担当者が共同で演習要項を作成した

２．生活援助技術、医療支援技術　演習要項	2007年4月	担当者が共同で演習要項を作成した
３　教育上の能力に関する大学等の評価 実習先との調整について	1998年4月 2000年4月	1998年初めて助産学実習生を受け入れる新しい実習先と連携を行い次年度に継続するような調整を行ったことが評価された。2000年は新規実習先で、同様の評価を受けた。
４　実務の経験を有する者についての特記事項 1）「育児体験実習、命の大切さ」での講和 2）母子とふれ合い命の大切さを教える授業内の講和 1）「育児体験実習、命の大切さ」での講和	 2014年2，6月 2016年2，6月 2017年3月 2017年10月 2019年1月 2019年7月	 入間市母子愛育会青少年育成授業「育児体験実習、命の大切さ」講和 NPO法人「あいくる」主催の母子と触れ合い子供の命の大切さを教える授業内での講和（東野高校） 入間市母子愛育会青少年育成授業「育児体験実習、命の大切さ」講和
５　その他		特記事項なし

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
１　資格，免許	1991年5月 **1992年5月1日**	看護師 助産師
２　特許等		特記事項なし
３　実務の経験を有する者についての特記事項		特記事項なし
４　その他		特記事項なし

研究業績等に関する事項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） １　看護学テキスト・NICE ヘルスアセスメント　臨床実践能力を高める	共著	2010年3月	南江堂	編集；三上れつ、小松万喜子、小林正弘　第Ⅳ章ライフサイクルにおけるアセスメント　成人のアセスメント（71～81頁）、妊産褥婦のアセスメント（89～103頁）担当。
２　よくわかる健康心理学	共著	2012年8月	ミネルヴァ書房	編集；森和代、石川利江、茂木俊彦　女性の健康教育について（168～169頁）担当。
（学術論文） １　月経随伴症状軽減を目的とした健康教育プログラムの開発と効果の検討について（修士論文）	痰著	2005年1月	桜美林大学大学院国際学部人間科学専攻健康心理学専修	勤労女性を含む20～30代の女性に対する月経随伴症状軽減を目的としたプログラムを開発し、検討した。予備調査に基づき「月経随伴症状尺度」を作成。介入群、月経に関する日常生活や症状の項目を含めた即時記録群、対照群に実施した結果、種々の症状に対する介入が月経随伴症状を軽減させる事が確認された。
２　科学研究費補助金基盤研究（C）女子学生のヘルスリスク行動とリプロダクティブヘルス		2006年5月	科研報告書を冊子として発行	研究代表者　片平敬子、研究分担者　野田洋子、白石安男、前沢高子、桂きみよ、渡部加恵 2005年度女子学生のヘルスリスク行動とリプロダクティブヘルスに関連する要因のアンケート調査を実施した。即時的調査として協力を得られた32人を対象に基礎体温測定、月経の即時的調査、食事摂取量の調査、喫煙行動、性行動、という関連要因の調査分析を行った。この結果を踏まえリーフレット「女性と健康」を作成し、関東周辺の保健室勤務者に配布しアンケート調査を行い、評価をした。その結果、リーフレットは役立つとするものが大半であったが、字の大きさ、文章の量など改善が必要な点が明確になった（全94頁）。そのうちリーフレット内容全般と作成にかかわった（全56頁）。
（学会発表）				

１　産婦が抱くストレスの計量的評価に関する研究	共著	1998年7月	兵庫県母性衛生学会（神戸市）	島内敦子、岸田康子、高橋加恵、足高善彦、産痛の測定にvisual analogue scale for pain(VASP)、助産師スコア（MS）体温温度測定を用い、S病院の産婦6名に調査した結果、産婦における体表温度の低下がVASP,MSの変化と鏡面像的な変化を示した。
２　大学における助産師コース学生の実習による気づき	共著	1999年5月	第13回日本助産学会（札幌市）	高田昌代、大久保功子、島内敦子、新道幸恵　K大学の助産学コース履修生17名に助産学実習の学びと気づきを調査した結果、１・助産学コースにおける看護学の位置づけは、学生間で認識の違いがみられた。２．助産学実習を体験することにより看護職者としての職業的能力、助産師の専門性を認識していた。
３　大学における助産学コースの実習時間及び教員の実習指導時間について	共著	1999年5月	第13回日本助産学会（札幌市）	岸田泰子、高橋加恵、高田昌代、島内敦子、大久保功子、高田昌代　K大学の助産学コース履修生17名と実習指導教員5名を対象とし9週間の助産学実習と指導時間に関する調査を行った。 １．学生は前半に集中した実習時間を過ごし、前半の実習時間は計画の5単位を上回っていた。 ２．実習期間の内教員1人平均43日間、1日当たり平均10時間指導に当たり、直接指導に最も時間を費やし、全体の7割を占めた。ということが明らかになった。
4 阪神淡路大震災時における看護従事者の心的反応について	共著	1999年7月	第1回日本災害看護学会（神戸市）	高田昌代、松田宣子、島内敦子、新道幸恵、大久保功子、川畑摩紀枝、岸田泰子、高橋加恵 災害後3年目の看護従事者の心的反応および影響要因とデブリーフィングの結果を明らかにするために被害地区36病院と対照群の1病院に調査を行った。結果、１．心的反応、PTSD尺度は低下傾向にある。２．災害被害の有無、看護活動の内容によって心的反応、PTSD値ともに有意な差がみられた。３．デブリーフィング参加者は肯定的意見と否定的意見がみられた。
５　シュミレーションに焦点を当てた看護学教育研究の分析ー研究内容と教育効果ー	共著	2002年8月	2002年日本看護学会　看護教育（高松市）	小川妙子、工藤綾子、高橋加恵、大槻優子　基礎、成人、母性、小児、老年教育で、シュミレーションを用いた研究を文献検索し、質的に分析した。シュミレーションを活用した看護教育は各領域において行われていた。老年分野には多く見られ、母性分野には少なかった。
６　月経随伴症状軽減を目的としたプログラム受講生の月経イメージの変化	単著	2005年3月	第19回日本助産学会（京都市）	月経随伴症状軽減を目的としたプログラム受講生の月経イメージの変化は受講後にネガティブが減少し、イメージが具体化されたことが明らかになった。
７　月経随伴症状軽減を目的とした健康教育プログラムの効果	単著	2005年9月	第46回日本母性衛生学会（宮崎）	「月経随伴症状尺度」を作成。介入群、月経に関する日常生活や症状の項目を含めた即時記録軍、対照群に実施した結果、種々の症状に対する介入が月経随伴症状を軽減させることが確認された。
８　二分脊椎女性の月経と性の健康に関する研究　第1報　二分脊椎女性の月経の実態	共著	2008年8月	第27回日本思春期学会	野田洋子、小野敏子、笠井由美子、松野智香子、鈴木幸子、渡部加恵　二分脊椎女性とその家族のうち同意を得られた235名にアンケート調査を実施、分析した。月経状況は正常月経周期が56.3%と少なく、月経周辺期の変化として「下痢」「便秘」など二分脊椎の特性である排尿障害への影響が考えられた。月経血対処の工夫は各自が行っているが、不快症状や快適な月経時の生活支援が求められた。
（その他）				

９　厚生科学研究費補助金（子供各区総合研究）妊産褥婦および乳幼児のメンタルヘルスシステム作りに関する研究、助産師研究における母子のメンタルヘルスケアに関する研究	共同	1999年3月	調査報告会（千代田区）	分担研究者　新道幸恵、分担協力者　高田昌代、大久保功子、岸田泰子、島内敦子、高橋加恵、　　助産師、医師、心理専門家、助産師学校教員を対象にした調査結果から,助産師に必要な母子のメンタルヘルスケア能力と教育内容について次のことが明らかになった。１．能力及び教育内容への認識　２．教育内容の重要性の認識は教育担当者と実践者では異なっていた　３．教育内容は、看護、助産師、卒後とそれぞれに特有な内容がある。４．重要性が高いと認識された能力は、人間性やケアニーズの判断力、カウンセリング能力の育成を目指した教育である。
10　科学研究費補助金基盤研究（C）二分脊椎女性の月経と性の健康に関する包括的プログラムの開発		2008年5月		研究代表者　野田洋子、研究分担者　足立久子、池谷尚嗣、松野智香子、鈴木幸子、渡部加恵（2008年3月まで）思春期から性成熟期にあたる二分脊椎女性の月経と性の健康に関して面接調査（研究A）、質問紙調査（研究B）を行った。けんきゅうA ；二分脊椎女性とその親9名に半構造的インタビュー法にて面接調査を行い、その内容を質的に分析した。初経、月経の受け止めは、健常女性と変わらぬものだったが、月経で困った内容は「導尿」「尿漏れ」「下痢」の3カテゴリーで、排尿障害のある二分脊椎女性特有の問題であった。　研究B；二分脊椎女性とその家族のうち同意を得られた235名に行った調査を分析した。月経状況は正常月経周期が56.3%と少なく、月経周辺期の変化として「下痢」「便秘」など二分脊椎の特性である排尿障害への影響が考えられた。月経血対処の工夫は各自が行っているが、不快症状や快適な月経時の生活支援が求められた。